

会誌「蹤」に寄せて～上司に学ぶ～

鶴居村教育委員会教育長 村上明寛

校長先生方には日ごろからリーダーシップを発揮し、学校課題の解決にご尽力されていることに、心から感謝と敬意を表します。特に、学校力の向上に関する総合実践事業の実施に当たっては、主体的かつ創意工夫に満ちた取組を進めていただいていることに、この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、今年は作家・池波正太郎先生の没後百年。藤枝梅安の映画化や松本幸四郎の鬼平犯科帳のドラマ化と時代劇ファンには楽しい年です。手元にある池波正太郎没後30年記念誌を読み返していたら、昨年亡くなった中村吉右衛門のインタビュー記事がありました。タイトルは「長谷川平蔵に学んだこと」。その「強さと優しさ」とか「人間としての力」とか、役者としてそういうことを学んだといった趣旨のことを話していて、鬼平ファンには至極当然に理解できる楽しいお話ですが、記事を読みながら、頭をよぎったのは「学んだこと」。40年弱の長い公務員生活では、上司や先輩から公私にわたって多くのことを学んだなあ、と思ひ起こされます。私にかけていただいた多様な励ましの言葉の中から、珠玉？の名言を二つご紹介します。

真っ先に浮かんだのは、「お前、頭が禿げるくらい真剣に考えろ！」。この上司は、酔いが進むと私の頭をこつんと小突いてこう言っていました。この上司からは、ある制度について宿題が出されていたのですが、それは長年積み上げてきたものを根底から覆すものでした。当然、担当の私は反発。意地になって違う答えを出すものだから、いつもダメ出しでした。そんなときにご指導いただいた言葉です。仕事に手抜きなんかしていませんが、考えが足りなかったのでしょうか。道教委だけでなく道庁全体を考えろ、といった趣旨とはわかってはいましたが、とにかく納得できず、結局は双方妥協して着地でした。その後も、難題にぶつかるたびにこの言葉を思い出します。もっと考えなきゃって、自分に言い聞かせている言葉です。最近、前頭葉のあたりがかなり薄くなってきたので、やっとこの人の期待に応えられるようになったのかなと思います。いや単に歳のせいかな。

もう一つ、私が新採用で勤めた学校の校長先生のお言葉。この校長先生は「世の中がどんなに進歩しても、結局は人間関係なんだぞ」といった趣旨のことをよくおっしゃっていました。この言葉は、その後の公務員生活の基本です。公務員の世界はしょせん狭い世界なので、人事異動のたびに一緒になったり離れたります。時に怒鳴りたくなる時もありましたが、ぐっとこらえ、筋違いのことはやんわりお断りしておかないとたいへんです。幾度となく、立場が逆になり、あのときそつなく対応しておいてよかったと思うことがありました。最近はずっかり怖いもの知らずになってしまい、この言葉を思い出して反省することも。いずれにしても、大事なことです。

この校長先生は、教育局の義務教育指導班の班主査から小学校の校長先生になられた方で、私に「教育局の行政の人はいつも法令集を読んでいる」「仕事には必ず法的根拠があるんだ」「行政の人の仕事はとにかくすごいんだ」と言い、若いうちに教育局に就いて仕事しなさいと助言してくれた方です。その後、行政に入った私は、この方の行政職員に対するイメージを損なうことのないようがんばってきたつもりです。この方にめぐり会わなければ、たぶん私は行政に異動することもなく、従って、鶴居村に来れるような公務員生活にはならなかったでしょう。

この他にも、思い出される「お言葉」が多々あります。嬉しかったり、腹立たしかったり、きりがなかったのでこのへんにしておきます。鶴居村に来て4年。「蹤」への寄稿も4回目となるとだんだんネタがなくなってきました。なんの「学び」にもならぬことを書いてしまいました。